街角景気 上げ幅過去最大

東北・6月 人や経済活動に動き

東北活性化研究センターが8日発表した6県の6月の景気ウオッチャー調査結果によると、景気実感を3カ月前と比べた現状判断指数（DI、季節調整値）は37・4で、前月より22・7ポイント上昇した。2カ月連続の改善。新型コロナウイルスの影響で停滞していた人の流れや経済活動に動きがあり、比較できる2002年1月以降で最大の上昇幅となった。

これまでに上昇幅が最も大きかったのは、東日本大震災と東京電力福島第1原発事故後の11年6月に記録した18・8ポイント。

分野別（原数値）は家計動向が25・8ポイント上昇の41・9、企業動向は16・5ポイント上昇の27・9でともに2カ月連続のプラスとなった。

都道府県境をまたぐ移動の自粛が6月19日に解除されたことなどを踏まえ、ウオッチャーは「自粛解禁の動きからか高額商品が好調。県外客も増えている」（百貨店）「仕事が再開しスーツやスラックスを買い求める客が増えている」（衣料品専門店）と捉えた。

2、3カ月先の見通しを示す先行き判断DI（季節調整値）は2・8ポイント上昇の40・1で、2カ月連続で改善。ただ、上昇幅は対象の全国12地域で最も低い。

大規模な夏祭りが中止となり「観光客も少なく景気が悪くなる」（酒屋）との予想があったほか、「訪日外国人旅行者（インバウンド）に関しては新型コロナが世界的に収束しない限り厳しい」（旅行代理店）と慎重な見方もあった。

センターの担当者は「現状判断は大幅に改善したが、依然として水準は低い。先行きについては多くのウオッチャーが新型コロナの状況次第とみている」と指摘した。

センターは内閣府実施の東北分の調査を担当。小売業者など189人のうち173人から回答を得た。

とうほく経済

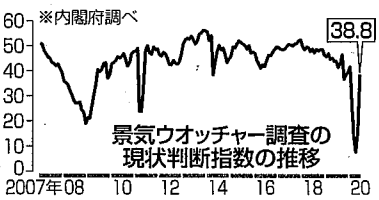
全国指数 2ヵ月連続改善

内閣府が8日発表した6月の景気ウオッチャー調査は、街角の景気実感を示す現状判断指数（季節調整値）が前月比23・3ポイント上昇の38・8となり、2カ月連続で改善した。比較可能な2002年1月以降で最大の上げ幅となった。新型コロナウイルスの緊急事態宣言が5月下旬に全面解除され、経済活動が徐々に再開したことが影響した。

数字上は新型コロナの国内感染が広がる前の1月（41・9）に近い水準まで回復した。一方で「景気は悪い。緊急事態宣言が再度出されると終わりだ」（北海道の美容室経営者）といった、感染第2波を警戒する声も目立った。

2、3カ月先の見通しを示す先行き判断指数は7・5ポイント上昇の44・0。基調判断は「厳しさは残るものの、持ち直しの動きがみられる」として、2カ月連続で上方修正した。現状指数を構成する項目別では、「家計」が26・9ポイント上昇の43・3、「企業」が15・4ポイント上昇の30・4、「雇用」が16・7ポイント上昇の27・4だった。

調査期間は6月25～30日で、全国の1834人から回答を得た。指数は50未満なら景気が下向きであることを示す。



景気ウオッチャー調査の現状判断指数の推移

コロナ下 オンラインで たんす整理増

無料相談を開始

山形市の老舗呉服店「布施弥七京染店」は、オンラインによる着物の無料手入れ相談を始めた。新型コロナウイルスの影響による外出自粛で身の回りを整理する人が増えたため、需要が増加。同店は「来店の必要がないので商圏を問わず、若い世代にも知識を伝えられる。たんすに眠る着物を見直すきっかけにしてほしい」と期待する。

フェイスブックのメッセンジャー、「Zoom（ズーム）」、スカイプといったビデオ会議アプリを使う。布施将英専務（47）が画面上で顧客と会話しながら、映し出される着物を見て状態を診断したり、解決法を助言したりする。

顧客が希望すれば、手入れに要する見積額を示す。着物を送ってもらい、実際の状態を見た上で料金を再度伝える。作業は1カ月半ほどで終了し、仕上がり品を送り届ける。

コロナ禍以降、自宅で着物を点検する人が増え、染み抜きや仕立て直し、処分する判断基準の問い合わせが多くなったという。

布施専務は「身近に着物に詳しい人がいないケースが目立つ。専門用語をなるべく使わず、悩みの解決につなげたい」と話す。連絡は2011年ごろから動画投稿サイト「ユーチューブ」で着物の手入れや保管法をテーマにした発信を続け、対応策を蓄積してきた。

大沼で閉店セール

15日から「顧客に感謝」

商業コンサルタント「やまき」（東京）は8日、山形市内で記者会見し、1月末に閉店し自己破産手続きに入った同市の百貨店「大沼」の旧店舗で15日から9月末ごろまで、「感謝閉店セール」と銘打って営業を行うと発表した。

突然の閉店で伝えられなかった顧客に感謝を表すのが目的。百貨店の再開を探るやまきが、土地、建物を所有する山形市の実業家から建物を借りて開催する。やまきのグループ会社が大沼の元従業員を雇用する形で、一部フロアで婦人服を中心に販売する。各種商品券は利用できない。

山形市の佐藤孝弘市長は「1月の閉店は残念な終わり方だった。閉店セールのやり直し自体はいいことだと思う」と語った。

水揚げしたばかりのホヤの新鮮さを来店客にアピールする魚谷さん（左）

交差点

★地震保険普及に注力

日本損害保険協会東北支部委員長に6月30日、東京海上日動火災保険の関根和人常務執行役員（57）＝写真＝が就任した。来年は東日本大震災から10年を迎えるが「地震保険の普及や高齢者の事故防止に力を入れ、東北の安心安全に貢献していく」と意気込む。

新型コロナウイルスの影響を受け、各社は在宅勤務やテレワークを活用するなどして感染予防の対策を取った。「支払いや契約継続など重要業務を続けることが大変だった」と言う。社会を支えるインフラの一つとして損保の存在をPRし、普及に努める考えだ。

うさちゃんクリーニング

ロイヤル社の私募債を受託

七十七銀行は8日、東日本で「うさちゃんクリーニング」などを展開するロイヤルネットワーク（酒田市）が発行した同行の寄付型社会貢献私募債を引き受けたと発表した。発行額は3億円で運転資金になる。発行日は6月30日。

同社は来年の創業60周年を迎えるに当たり、地域貢献をさらに進めようと私募債を活用した。今後、同社と同行が発行手数料の一部を使い、物品を寄贈する。地域医療を支える分野で役立ててもらうため、山形県への寄付を予定する。

クリーニング大手の同社は1961年創業。約650店を運営するほか、病院やホテル向けリネンのクリーニングを手掛けている。

ガソリン価格 8週連続上昇

東北・6日現在

資源エネルギー庁が8日発表した東北のレギュラーガソリン平均小売価格は6円、配達が1395円でともに5円高くなった。

石油情報センターによると、新型コロナウイルスの影響を受けた経済活動の再開、産油国の協調減産に対する二つの期待感で原油価格が上昇し、小売価格に反映された。次週も小幅な値上がりを見込む。

東北のハイオク価格は40銭高い140円10銭、軽油は30銭高い110円50銭。灯油18リットルは店頭が1286円、配達が1395円でともに5円高くなった。

東北のガソリン価格（6日現在）

	価格	前週比
青森	126円10銭	▲40銭
岩手	125円30銭	20銭
宮城	125円70銭	変わらず
秋田	126円60銭	40銭
山形	138円50銭	50銭
福島	134円10銭	60銭
東北	129円10銭	30銭

（注）レギュラー1リットル当たり。▲はマイナス

四半期決算東北

8日

21年2月期第1四半期（増減は前年同月比）

◆売上高、経常利益が過去最高

サンデー（八戸市）　売上高6・4％増の135億35百万円▽経常利益95・0％増の5億25百万円▽純利益70・7％増の3億47百万円

新型コロナウイルス感染拡大でマスクや消毒液、園芸用品など巣ごもり関連商品の販売が好調に推移した。